

### 中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

#### 学校教育目標

- ～挑戦・発信・錬磨～
- 主体的に考え、伝える力と課題を解決する力を高める。【知】
  - 人を思いやり、自分や周りを大切にすることを育てる。【徳】
  - 様々なふれあいを通し、豊かな心と体を鍛える。【体・開】
  - 社会の一員として、広い視野に立ったものの見方や考え方を身に付ける。【公・開】

#### 教育課程全体で育成を目指す資質・能力

- 課題解決力・発信力・コミュニケーション力（「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」）
- 自己肯定感・協働・挑戦する気持ち（「学びに向かう力、人間性等」）

#### 具体化した資質・能力

#### 中期取組目標

- 社会とのつながりを意識し、自ら課題を見つけ、その解決に向けて、他者と協働して、発信できる「学び」を充実させます。
  - ・1年目は、自らの考えを伝え合い、認め合う授業、行事等を推進します。
  - ・2年目は、生徒の思い、表現を大切にしながら、自らの意見を発信する場面を多く設けます。
  - ・3年目は、社会全体に目を向け、課題解決のために、他者と協働しながら、自分の考えを深め、自分の思いを的確に表現できるようにします。
- 学校、地域、家庭で連携して、生徒の自己肯定感・自己有用感を高め、何事にも自信をもって、挑戦する気持ちを育みます。
  - ・3年間を通して、一人ひとりが「価値のある」「必要で」「かけがえない」存在であることを実感し、個に応じた指導を充実させ、学校を自分らしく過ごせる「場」とします。

#### 学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善	①本校の実態、市の学状のデータに基づいての授業改善、授業力向上を目指す。 ②放課後学び場事業の学習会を通して、個に応じた支援を充実させる。
担当	学力向上推進部・ICT教育推進部

#### 学力向上に関わる本校の状況

○横浜市学力・学習状況調査、生活意識調査の結果から  
「自分にはよいところがある」と解答している生徒が学年が上がるにつれて増えている。



#### 今年度の目標

生徒が相互に学び合える場面を設定し、安心して参加できる集団を育成する中で、自己肯定感を高めていける授業を実施していく。

#### 目標を実現するための具体的行動プラン

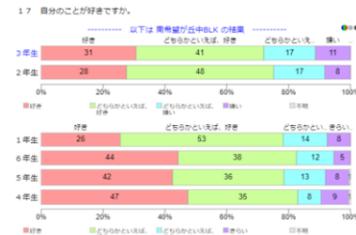
- 上半期
- グループワークやペアワークを取り入れ、授業中のコミュニケーションの機会を増やす。
  - 発問や発表の仕方を工夫し、生徒が発言しやすい風土を作る。
  - 失敗しても大丈夫であるという雰囲気や人間関係を築く。
  - 「わかる」「できた」「参加できた」という体験や充実感を得られるスモールステップを意識的に組み込んだ授業を行う。
  - さまざまな資源を活用して個別最適な学びを提供していく。
  - 放課後の学習支援を継続することで、学習意識や粘り強く取り組む姿勢を育む。
  - 生徒が他者と協働しながら課題解決に向かえる授業を展開する。
- 下半期

### 豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
人権教育	①小中ブロックで9年間を見通した人権教育を行うために、小中合同での人権に対する研修や各学校での取組の共有を図る。 ②道徳の授業前後の日常で子ども一人ひとりの成長の様子を見取り評価していくことを大事にし、学校教育目標や他教科との関連も意識し、授業改善に取り組む。 ③生徒会活動や委員会活動を通じて挨拶運動を積極的に行い、お互いに認め合う気持ちや主体的に挨拶ができる生徒を育成する。
担当	道徳・人権推進部

#### 豊かな心に関わる本校の状況

(1)豊かな心に関わる児童生徒の実態  
○横浜市学力・学習状況調査、生活実態調査の結果から、小学4年生から中学3年生までの6年間で学年が上がるにつれて自尊心の低下が見られる。



#### 今年度の目標

昨年度に引き続き、人権週間や道徳の授業等を通して、人権について「考える」、「触れる」機会を設定し、誰もが安心して豊かに過ごせる学校、学校づくりを行っていく。

#### 目標を実現するための具体的行動プラン

- 上半期
- ・「人権作文」に全校で取り組み、人権に関する意識を高める。また、お互いに人権に関する意識を共有するために学級での道徳授業の活用。
  - ・平和学習「よこはま子ども国際スピーチコンテスト」の取組を通し、国際平和への理解を深める。
  - ・道徳・総合の時間を活用し、コミュニケーション能力を高め、仲間との関わりの中で自分の存在を認め、自らの役割を担う中で自尊心を高められるような活動を意図的・計画的に行う。特に道徳では、全職員で授業改善に努め、生徒の内面的な成長につなげられるようにする。同時にあらゆる差別は「差別する側の問題」(自らが差別する側にいること)であることを子どもに分かる学びの場をつくる。
  - ・日々の教科授業の中で「グループ活動」を取り入れ、お互いに学び合う機会を設定し、「人とつながる」「人から学ぶ」「自分を大切に」「他の人も大切にできる」感覚を育む。
- 下半期
- ・上半期の活動の振り返りを行い、下半期にある「人権週間」への取組につなげていく。
  - ・人権週間では、生徒に向けた講話や職員に向けた研修の機会を持ち、人権意識の向上につなげていきたい。
  - ・地域とのつながり等を踏まえて、ボランティア活動等にも力を入れて取り組んでいきたい。

#### 健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康安全教育	朝ご飯をしっかりと食べてきている生徒が多いが、水分を摂っていない生徒が多い。また、熱中症対策の呼びかけをするようにする等、健康・安全について主体的に実践できるよう、計画的に健康教育を実践する。
担当	保健安全指導部

#### 健やかな体に関わる本校の状況

(1)健やかな体に関わる生徒の実態  
横浜市学力・学習状況調査 生活意識調査の結果から、朝ご飯は9割の子どもたちが食べているが同じ時間に起きたり、寝たりしている子どもたちは7～8割。睡眠の量や質によっては朝ご飯を食べられない子どもたちがいる。



#### 今年度の目標

SDGsの取組にもつなげて、運動、食事、睡眠、休養等の生活習慣向上に向けて意識的に活動を実施していく。

#### 目標を実現するための具体的行動プラン

- 上半期
- 朝ご飯をしっかりと食べてきている生徒が多いが、水分を摂っていない生徒が多い。熱中症対策の呼びかけをするようにする。
  - 規則正しい生活習慣を確立させるためにも、休養・睡眠の質を上げることが大切であり、その方法を講演会等を通して伝えていく。
  - 課題解決に向けた具体的な実践につなげられるようにするために、新体力テストの結果や健康診断の結果を一人ひとりの生徒が振り返る時間を設定する。
  - 学校保健委員会の取組を上手く活用し、学校全体で意識向上につなげていく。
- 下半期

上半期の取組を振り返りながら、課題解決に取り組む態度や課題を解決するための適切な意思決定や行動選択が行う力が育まれるようにする。